（３）－４　４年生の取組

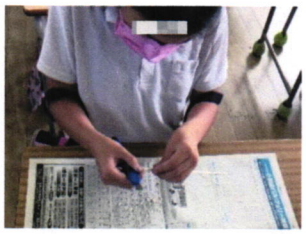
①　児童の実態

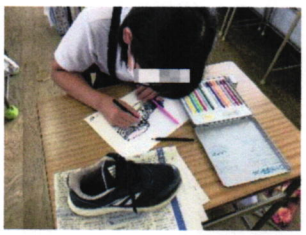
本学級の児童は図画工作科の時間を楽しみにしており，意欲的に作品づくりに取りかかっている。試行錯誤しながら活動に取り組もうとするが，自分の思いを表現するために必要な技能が伴わず，自分の表現方法に自信が持てない様子が見られる。作品が完成したときの達成感や充実感を味わわせたいと考えた。

②　ねらい

・小刀を適切に扱って割り箸からペンを作るとともに，表したいことに合わせて表し方を工夫する。
・靴を観察して感じたことや想像したことから形や色などを生かしながら，どのように表すかについて考える。

③　取組の実際





ア「はしペンづくり」～スマイルこうぼう～

自分で製作した用具で描くことで，作品に愛着を持つことができると思い，小刀を用いて割り箸からはしペンを作った。児童は，削り具で様々な筆跡になって いく面白さを感じながら，自分の好みにあった線が描けるように試し書きをしながら夢中になって取り組んだ。完成したはしペンを見て，児童は早く使ってみたいという意欲が高まっていた。また，様々な削り方をくり返し試したことにより，小刀を使うことの技能の高まりも感じられた。

イ「靴のスケッチ」

次に，箸ペンを用いて靴を描く題材を設定した。普段何気なく履いている自分の靴だが，触ったり，遠くから眺めたり，細かいところを丁寧に観察することで新たな発見や愛着を持つことになり自分の表現したいことへの形や色、イメージを持つことができた。それによって，細かい線や色，よごれや傷などをかくことにつながっていった。線の強弱をつけたいときや細かい部分を描く時など，ペンを使い分けて表現し，墨汁の立体感と力強さと相まって独特の表現となる。最後にペンのタッチを活かすための色の感じを考え，濃淡やぼかしの技法を生かした彩色を行った。こだわりのある作品に仕上がり，付けた題名からも作品への愛着が感じられた。作品を鑑賞し合い，それぞれの作品の良さや違いを味わい，見方や感じ方を広げた。自分の作品の色，形，表現方法の良さを他人から教えてもらうことで，自分の作品の良さに気付くことができた。

④　成果と課題

（成果）

・自分で製作した用具で自分の靴を描くことで，「自分だけの作品」という視点を持ち，作品に愛着を持つことができた。
・細部まで見たり，触ったりすることで形や汚れ，手触り，色の濃淡などを表わしたいという思いが高まり，題材を通して作品に最後まで取り組もうとする意欲の持続に繋がった。

（課題）

・自分の表現したい物に対する形や色を表わそうとしていたが，十分な技能の定着には至らず，課題が残った。今後は，より多くの用具や材料を用いて経験を積み重ね，自分の表現にあった活用ができるよう支援していきたい。

（３）－５　５年生の取組

①　児童の実態

５年生の児童は，明るく活発な児童が多い。毎週の図画工作科の時間や，隔週で行われているスマイルこうぼうを楽しみにしている。しかし，経験が大きく左右する技能面に関しての個人差が非常に大きく，本学級の課題ともなっている。また，鑑賞活動においては，「正しい答え」を見つけようとするため，自由な作品の見方ができずに意欲的に取り組めない児童も少なからずいる。

②　ねらい

・色鉛筆の基礎的な彩色の技能を向上させる。

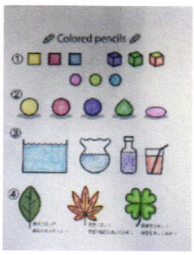
・美術作品に親しみ，作品の見方や感じ方をより豊かなものにする。

③　取組の実際

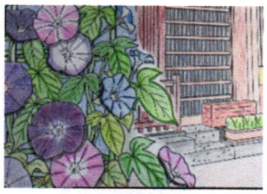
ア　「どこかにているところはないかな？」～アートカードを使って～

徳島県立近代美術館よりアートカードをいただき，それを用いて鑑賞活動を行った。２人１組で神経衰弱の要領で裏返しているカードを２枚選び，その共通点が言えるとカードがもらえるゲームを行った。自分がカードを手に入れるために様々な角度から作品を見つめたり，友達の視点を学んだりすることで，多角的な作品の鑑賞の仕方を学ぶ機会となった。

イ　「色鉛筆の世界」～スマイルこうぼう～



４月当初に，「児安の春を見つけよう」とういテーマで，児安小学校区を探検し春らしいものを探した。それらを記録し絵の具・マーカー・色鉛筆など，表現に合った用具を選ばせた。そうした中で色鉛筆の技能に不十分さを感じ，スマイルこうぼうの時間を活用し技能向上を試みた。そこで，基礎的な色鉛筆の４つの技法について体験した。色鉛筆での混色を経験し，児童は新しくできた色を見入っていた。また，その習得した技能をさらに高めるために，季節感を生かした「あさがおの塗り絵」に挑戦した。あさがおの花や葉の色合いにこだわりを見せた児童が多く，技能の向上が感じられた。



④　成果と課題

（成果）

・今まで何度も使ってきた色鉛筆という用具でも，新たな技法を知ることで格段に技術の向上が見られた。また，扱いやすい用具であるため，これからの汎用性も非常に高いと思われる。

・共通点を見つける鑑賞活動では，友達と作品を見比べ相違点を明らかにしていくことにより，作品を見る視点（形や色・イメージ）が分かるようになってきた。

（課題）

・スマイルこうぼうと図画工作科の授業との連携を図った時間割を見直す必要があった。

（３）－６　６年生の取組　題材名「いろどり　いろいろ」

①　児童の実態

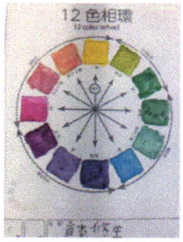
本学級の児童は，課題にまじめに取り組む児童が多く，「私の好きな風景・場所」という題材でも自分なりに粘り強く作品を仕上げようとする姿が多く見られた。しかし，他者の評価を気にする児童が多いことから，風景や場所のような既存のものを描く題材は，比較的優劣を感じやすく，自分の作品に自信をもてず，意欲をなくしたり苦手意識をもったりすることにつながりがちである。

そのため，技能面を伸ばしつつ，他者を気にせずに思いのままに楽しめる題材を設定し，表現することのよさや面白さを感じてもらいたいと考えた。

②　ねらい

・混ぜたり組み合わせたりして，いろいろな色をつくる。

・材料や用具の特長を生かして，自由な表現を楽しむ。



③　取り組みの実際

ア　「12色相環」～スマイルこうぼう～

赤色・黄色・青色の絵の具を混ぜて，12色の色をつくる活動を行った。少しずつ混ぜる量を変えると，微妙に色が変化するので，児童も興味をもって意欲的に取り組めた。同じ色でも，既製の絵の具の色とは違う個性的で味わいのある色になり，それぞれが満足のできる12色相環ができあがった。

イ　「いろどりいろいろ」～材料や用具の特長を捉えて，自由な発想で表現する～

まず，土，砂，チョークやクレヨンを削ったもの，おがくず，花びら等を混ぜ合わせて「絵の具」の代わりになるものをつくった。混ぜ合わせる素材によって，いろいろな色ができるので，子どもたちはいろいろ試しながら，時間を忘れて夢中になってつくっていた。次に，つくった色を使って，黄ボール紙の上に絵を描いた。水分を含んだものを，紙を縦にして流したり，削った色を上から散らすなど，筆ではできない表現の工夫も見られた。

④　成果と課題

（成果）

・「絵の具」の代わりになる材料の素材集め，材料づくり，絵を描くなど，どの活動も様々な材料を試しながら，意欲的にすることができていた。

・12色相環で得た知識を元に，どの色を混ぜれば，自分のつくりたい色になるのかを考え，試すことができていた。

（課題）

・できあがった作品が，重たく，砂などがこぼれ落ちるので，掲示することが難しい。

・素材や材料の種類が多い割には，作品に広がりが見られなかった。もっと材料の特性を生かした活動を工夫できればよかった。

（３）－７　支援学級の取組

①　児童の実態

支援学級は，表現することが得意とする児童や，表現することは好きでも手先の器用さが伴わない児童など，実態が様々である。また，自分の気持ちを表したり伝えたりすることが苦手な児童が多く，中には交流学級での鑑賞の活動のときに固まってしまう児童もいる。

②　ねらい

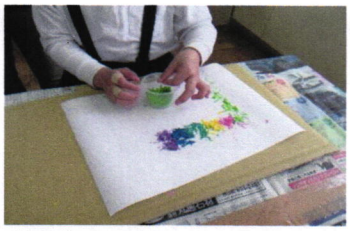
・ルールを守り，安全に活動することができる。

・自分の作品に題をつけ，よいところや工夫したことを発表することができる。

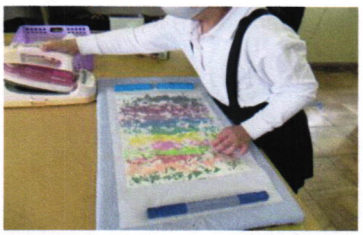
・友達の作品を鑑賞し，それぞれの作品のよさに気づくことができる。また，そのよさを受け入れることができる。

③　取組の実際

・前準備として，児童が分担してプラスチック色鉛筆（クーピー等）をけずっておき，本時でちらして絵を描く。（このとき，作りたいものをイメージして制作しても，イメージせず自由にちらしてできたものが何に見えるかを考えるのでも，どちらでもよい。）



・作品にクッキングシートをのせ，文鎮で固定し，アイロンをかける。



・どんな絵ができたか発表する。また，友達の作品が何に見えるかを考え，共有する。

④　成果と課題

（成果）・表現したいことを絵に表し，作品への思いや工夫を発表することができた。

・他の人の作品のよいところに気づき，その良さを認めることができた。

（課題）・活動時間が足りず，何に見えるかの共有があまりできなかった。

・教職員側のねらいや意図を，もっと明確にする必要性を感じた。